

# 令和三年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立向島東中学校

5月27日に、本校3年生68名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・数学の2教科と併せて、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総合結果(国語・数学)

今年度実施された国語と数学は、正答率は全国平均を下回ってはいますが、無回答率は昨年度と比べ改善しており、生徒が問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうする姿勢が育まれています。この結果は生徒質問紙の、各教科の学習が「大切だと思うか」や「将来、社会に出たときに役に立つと思うか」といった項目で全国平均を大きく上回っている点から、学びに対する意欲が向上している結果であると分析できます。

### 数学より

前回調査と比較すると、計算問題の正答率と無回答率が改善されています。しかし、以下の内容が少し気になります。

- 図形の分野（とくに2年生時の証明）
- 説明の文章を書いたりする記述式の問題

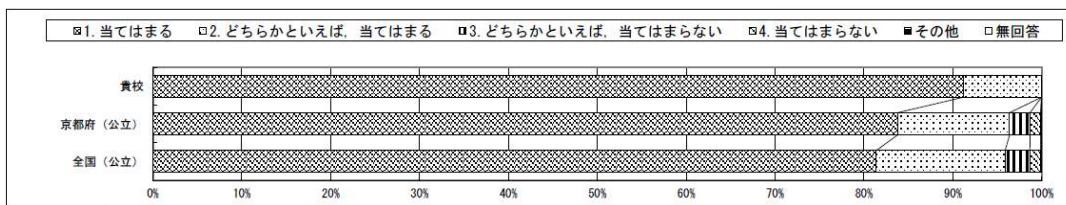
学習確認プログラムでも同じような傾向が出ています。復習など家庭学習をしっかりしましょう。

### 国語より

全体的に見ると、話すこと・聞くことの点数が高く、授業中に積極的に取り組んでいるペア学習やグループ学習の成果が表れていると思います。しかし、記述式回答の無回答率が50%程度に上ることや、読むことの点数が低くなっています。読解力や語彙力を増やすためには、教科書に載っている本文だけでなく、読書に親しむ態度が大切です。

## 成果①(生徒質問紙調査から)

Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

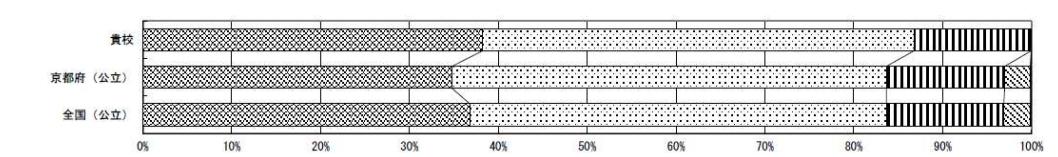


前回調査においても、本校では肯定的な意見の割合が高かった質問です。今回も肯定的意見が100%となっています。本校の人権教育・道徳教育だけでなく、とくに今年度の3年生は、「命」をテーマとして、3年間の総合的な学習の時間に取り組み、向島祭の舞台発表を行ってきました。その成果が見られる結果となっています。

## 成果②(生徒質問紙調査から)

Q 1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

1. 伝えていた 2.どちらかといえば、伝えていた 3.どちらかといえば、伝えていなかった 4.伝えていなかった その他 無回答

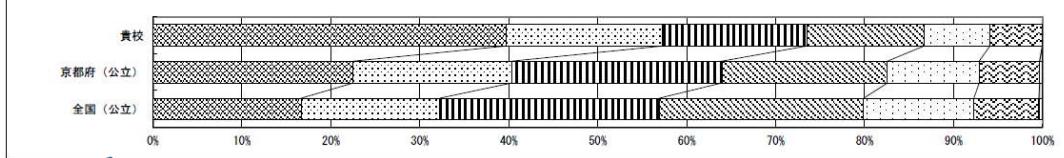


肯定的意見を答えた生徒は87%と、京都府・全国平均を上回っています。生徒が共に学び合う授業を目指した授業改善による成果が見られます。

## 課題①(生徒質問紙調査から)

Q 普段（月曜から金曜）、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯式、スマートフォンを含む）をしますか

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない 4. 1時間以上、2時間より少ない  
5. 1時間より少ない 6. 全くしない その他 無回答

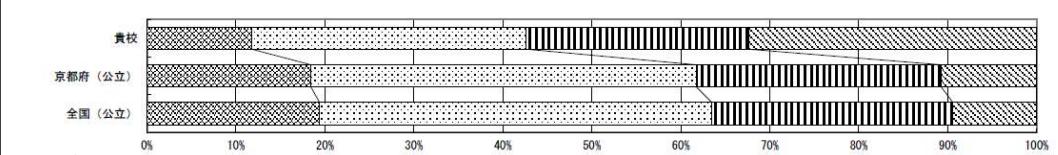


4時間以上使用の生徒が40%と、京都府・全国と比べてもかなり高い割合となっています。学校においても、SNS等の使用に関してこれまでにも情報教育を進めてきていますが、大変厳しい現状があります。

## 課題②(生徒質問紙調査から)

Q 家では自分で計画を立てて勉強していますか。

1. よくしている 2.ときどきしている 3.あまりしていない 4.全くしていない その他 無回答



「よくしている・ときどきしている」の肯定的意見を答えた割合は43%と、京都府・全国と比較しても低い。例年あげられる本校の課題の一つです。今年度から学習習慣の確立を目指して取組を始めました。

※「全体を通じた本校の成果と課題」で記述。

## **全体を通した本校の成果と課題**

本校では、「未来の世界を たくましく生き抜く 学び手の育成」を学校目標として、今年度から学力向上を軸とした学校改革に取り組んでおります。これまでにも子ども達が共に学び合い、高め合う姿を目指して授業の充実に努めてきました。授業のグループ学習の場面では、互いの意見を傾聴し、自分の意見を発信するなど、良い雰囲気のもとで勉強に取り組んでいます。その結果、前回調査と比べ勉強に対する意識の変化と共に、学び合う集団の中で、協調性や自尊感情も育まれていることが明らかとなりました。

しかし、課題①（生徒質問紙調査から）で示したように、家庭学習をする生徒と全くしない生徒では、学力に大きな差があります。また、スマートフォンの利用時間についても全国平均と比べても長く、本校では学習習慣を確立させることが大きな課題となっております。

本校では学校改革の取組の一つとして、『学期に2回の定期テスト実施 ⇒ 各授業での観点テスト（単元テスト）実施』に変更しています。これは、子どもたちが定期テストという大きなまとまりでそのテスト期間だけを勉強するのではなく、各授業で行われる小さなまとまりの観点テストに向けて、毎日少しづつ勉強できるようにすることを目的としています。また、これら観点テストの学期ごとの学び直しの機会として、「学期末テスト」を設定しています。学習には、少しづつでも毎日の積み重ねが大切です。本校の『観点テスト（単元テスト）・学期末テスト』の制度を上手く活用し、日々の学習習慣の確立を意識して取り組んでいきましょう。

## **保護者の皆様へ**

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果は、学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校結果をみると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関りや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力を願いいたします。